

平成30年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

平成30年12月（平成26年から毎年12月に実施）

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校33校、中学校32校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校	2,859人（抽出率5.7%）	}	合計 7,607人（抽出率5.7%）
中学校	2,954人（抽出率6.1%）		
高等学校	1,794人（抽出率5.1%）		

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホ等とは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、LINE、Twitter、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

令和元年5月
岡山県教育庁義務教育課
生徒指導推進室

(1) スマホ等の利用状況について

〈概要〉

① スマホ等の所持率

自分のスマホ等を持っている割合は、小学生30.1%、中学生58.9%、高校生98.4%であり、前年度と比べて、中・高校生で増加している。

② 長時間利用の割合

スマホ・ゲーム機等を利用する児童生徒のうち、平日1日に平均3時間以上利用している割合は、小学生18.0%、中学生27.9%、高校生41.3%であり、前年度と比べて、すべての校種で増加している。

③ 部活動所属別の利用時間

中・高校生ともに部活動に所属していない生徒の方が所属している生徒に比べ、長時間利用(3時間以上)の割合が4~14ポイント高くなっている。

④ ネット等の利用率

普段、インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスを利用している割合は、小学生63.4%、中学生83.6%、高校生96.6%であり、前年度と比べてすべての校種で増加している。※小(ゲーム:77.7%)、中(LINE:86.2%)、高(LINE:97.7%)が最も利用割合が高い。

⑤ 日常生活への影響

スマホ、ネット、ゲーム機等の利用のために「日常生活で減った時間がある」と答えた割合は、小学生27.0%、中学生41.2%、高校生46.0%であり、前年度と比べて、小・中学生で増加している。※自分専用のスマホ等を所持している方が、その割合は高い。

⑥ 情報機器端末の学習利用

すべての校種において、スマホ等の情報機器端末が広く学習にも利用されている。

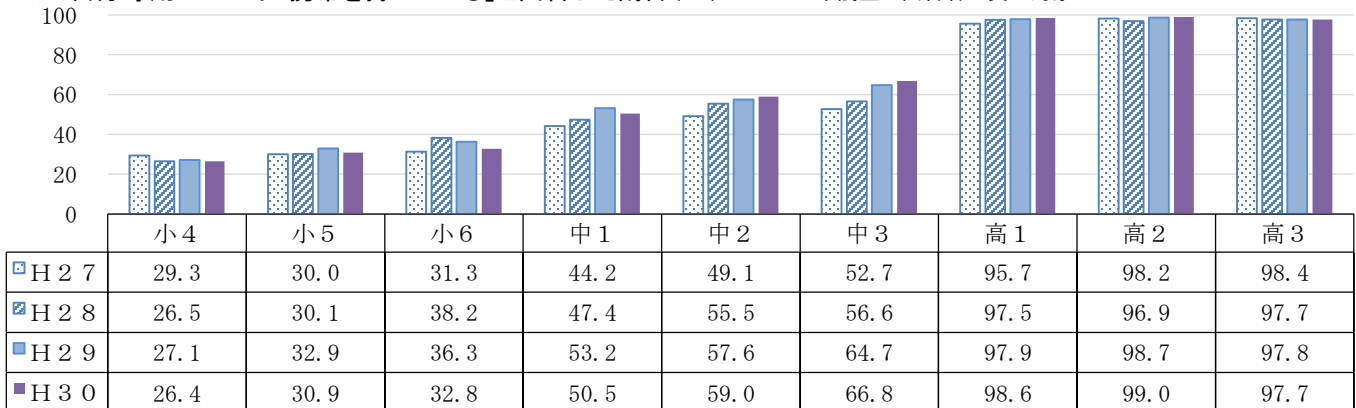
⑦ ネット依存傾向

ネット依存の傾向について、「高い」と判定された児童生徒の割合は、小学生1.0%、中学生3.0%、高校生3.1%となっている。また、前年度と比べて、小学生・中学生は依存傾向の「低い」児童生徒の割合が減少し、「中程度」「高い」割合が増加しているが、高校生は、依存傾向の「高い」生徒の割合が減少し、「中程度」「低い」割合が増加している。

① 自分のスマホ等を持っているか

◆ 「自分専用のスマホ・携帯を持っている」と回答した割合(%)

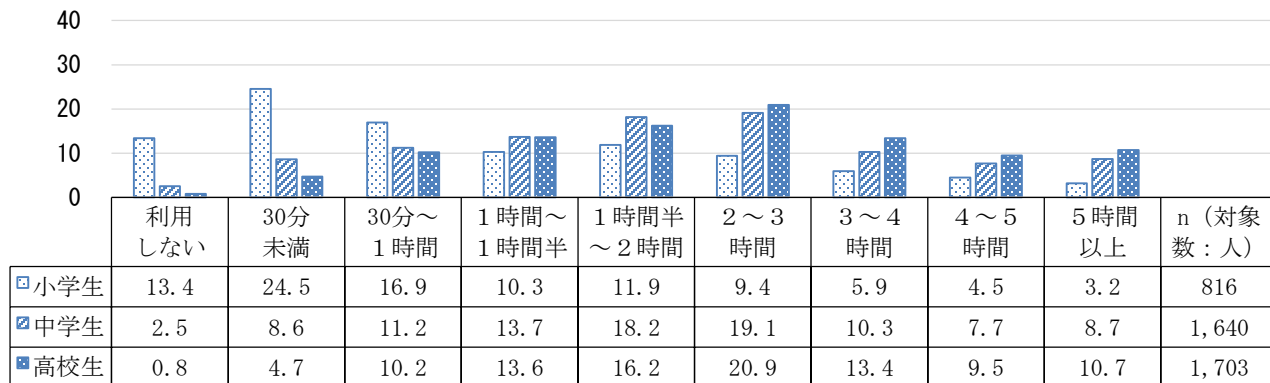
<本調査の回答者全員が対象>



	小学生	中学生	高校生
H27	30.3	48.6	97.4
H28	31.6	53.2	97.4
H29	32.1	58.4	98.1
H30	30.1	58.9	98.4

② 平日1日当たり、どれくらいスマホ等を利用しているか

◆ 平日1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>



※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

◆ スマホ・携帯、パソコン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ゲーム機等、すべての情報機器端末の利用時間の合計を「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	n(H30対象数:人)
小学生	13.9	15.5	17.3	18.0	+0.7	2,859
中学生	23.9	22.5	25.1	27.9	+2.8	2,954
高校生	33.8	34.6	36.3	41.3	+5.0	1,794

<参考>利用時間の全国比較

平日1日当たり2時間以上、スマホやゲーム等を利用する児童生徒の割合(%)

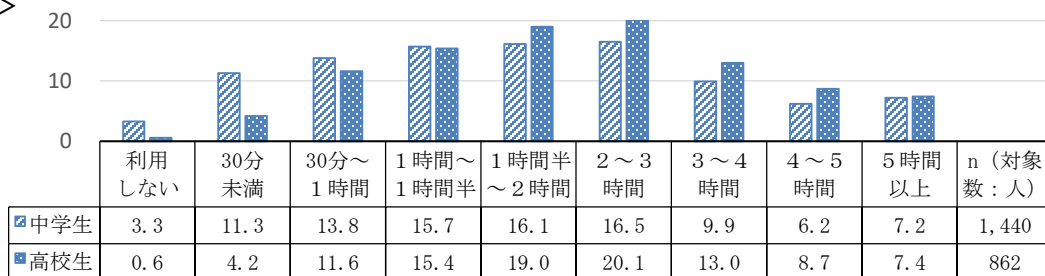
	岡山県	全国
小学生	31.8	39.4
中学生	48.4	61.0
高校生	63.3	82.6

全国値は、青少年のインターネット利用環境調査【内閣府 H31.2】による。

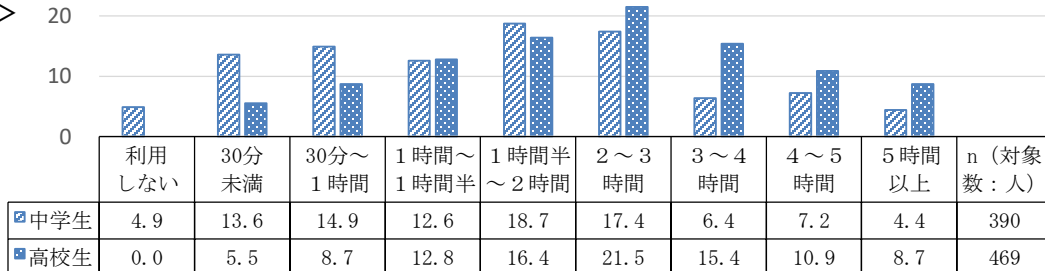
③ 「所属する部活動」別に見た、平均1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%)

<中学生・高校生全員が対象>

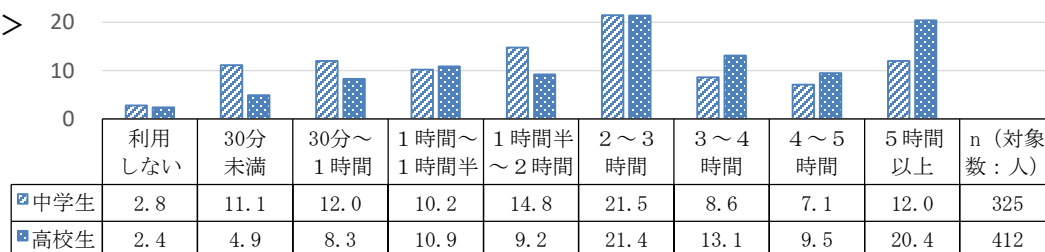
<運動部>



<文化部>



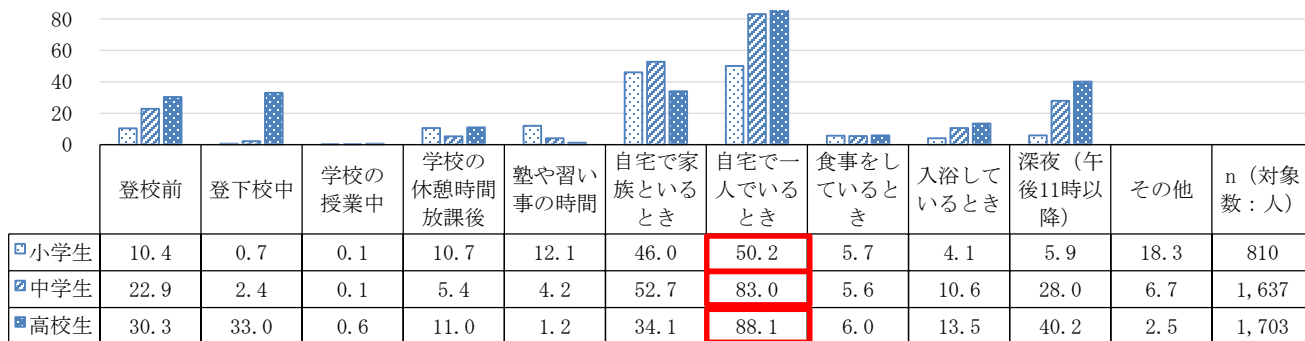
<所属なし>



スマホ等をよく利用するのはどんな時か 【複数回答】

◆ スマホ等の利用時間帯別割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



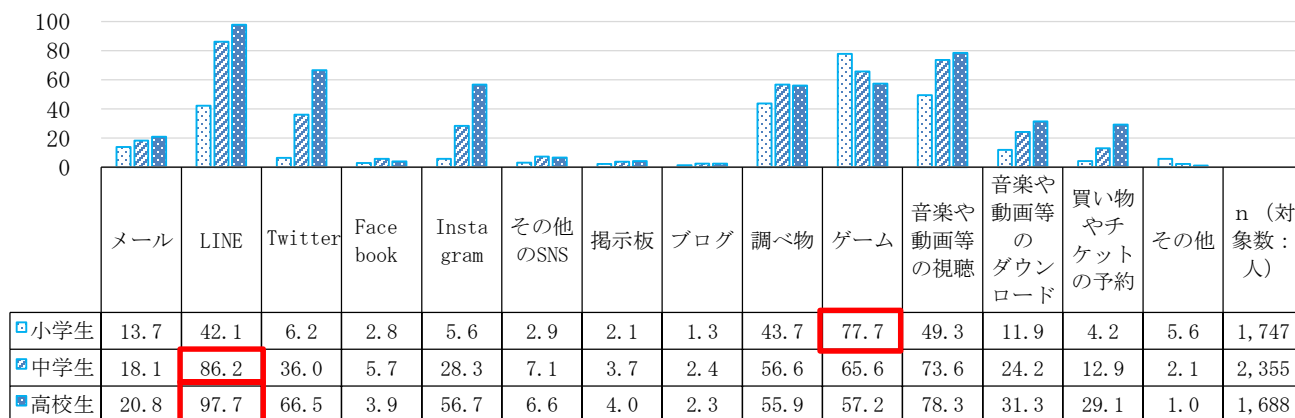
④ ネットやコミュニケーションサービスを利用しているか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用している」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	n(H30対象数:人)
小学生	57.2	57.7	55.6	63.4	+7.8	2,859
中学生	78.0	78.8	81.4	83.6	+2.2	2,954
高校生	95.3	95.5	95.9	96.6	+0.7	1,794

◆ サービス形態別の利用率(%)【複数回答】 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



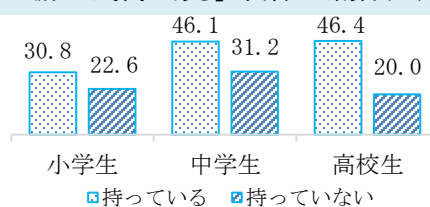
<参考> ネットの利便性に関する項目例「調べ物」の割合(H29) 小:42.4%、中:53.4%、高:58.1%

⑤ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために日常生活で減った時間があるか

◆ 情報機器端末等の利用のために、「減った時間がある」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

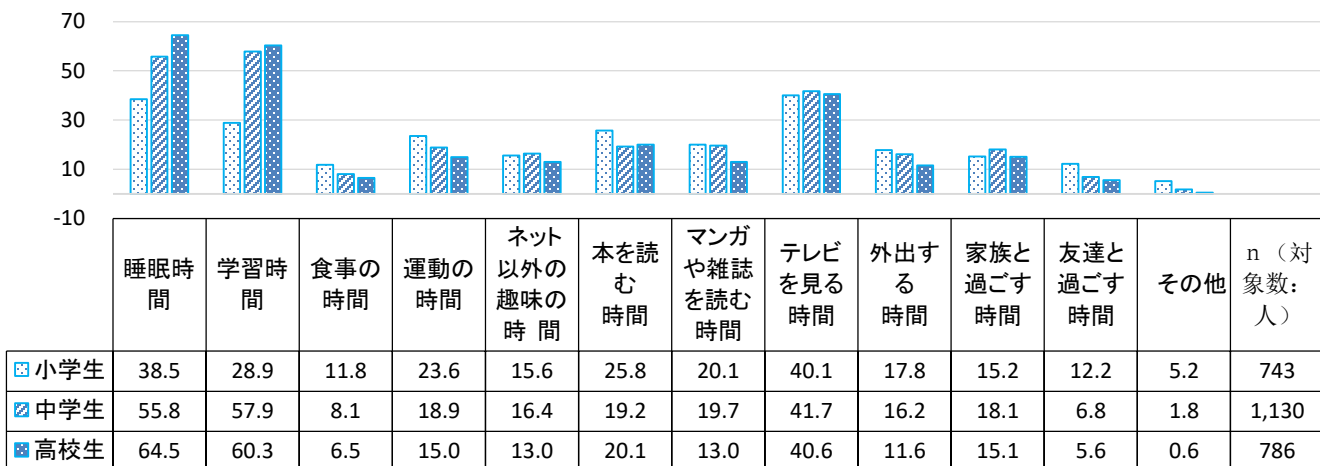
	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	n(H30対象数:人)
小学生	23.7	23.6	24.2	27.0	+2.8	2,859
中学生	39.1	36.6	40.7	41.2	+0.5	2,954
高校生	43.5	46.5	48.1	46.0	-2.1	1,794

自分のスマホ等の所持の有無による「減った時間がある」と回答した割合(%)



◆ 具体的に減った時間(%)【複数回答】

＜情報機器端末等の利用のために「減った時間がある」と回答した児童生徒が対象＞



【小学生】 ①テレビを見る時間 (40.1) ②睡眠時間 (38.5) ③学習時間 (28.9)

【中学生】 ①学習時間 (57.9) ②睡眠時間 (55.8) ③テレビを見る時間 (41.7)

【高校生】 ①睡眠時間 (64.5) ②学習時間 (60.3) ③テレビを見る時間 (40.6)

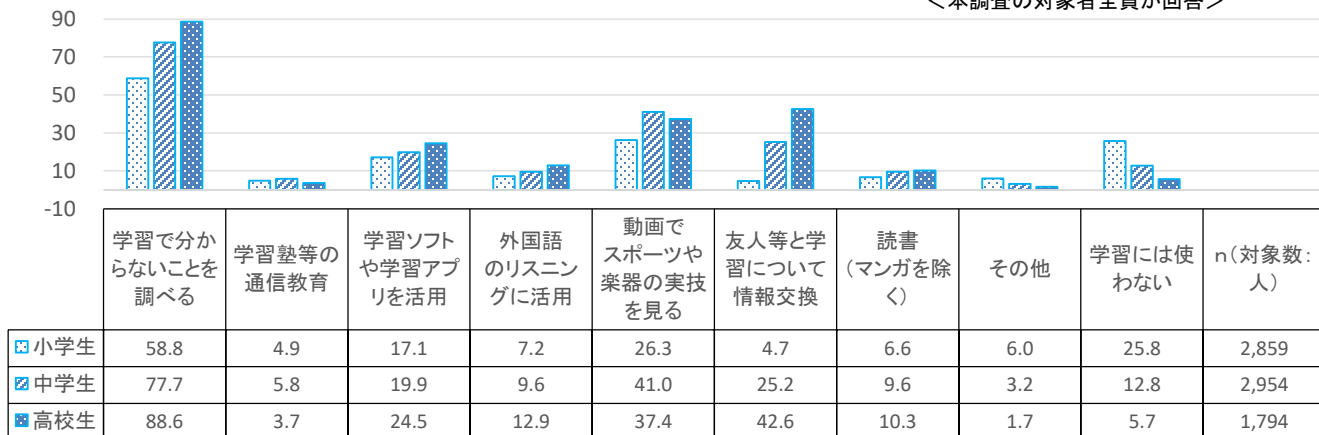
◆ 情報機器端末などの利用のために、「減った時間がある」と回答した利用時間別の割合(%)

＜自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答＞

	小学生					中学生					高校生				
	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	H27	H28	H29	H30	対H29年増減
0～1時間	22.7	23.3	21.5	22.2	+0.7	33.8	33.6	34.0	34.7	+0.7	32.4	40.4	37.7	41.3	+3.6
1～3時間	35.7	38.9	38.7	35.8	-2.9	42.6	40.4	45.9	46.3	+0.4	44.9	51.1	50.1	45.2	-4.9
3時間以上	47.4	49.5	48.0	55.1	+7.1	58.6	47.5	56.0	55.3	-0.7	51.3	46.2	51.7	50.3	-1.4

⑥ 情報機器端末をどのように学習活動(習い事や部活を含む。)に活用しているか。【複数回答】

＜本調査の対象者全員が回答＞



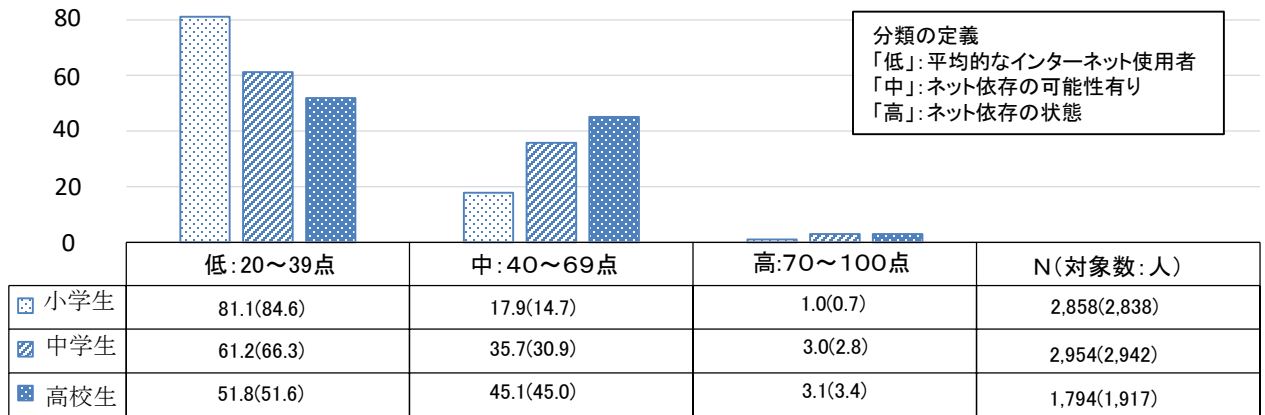
※ 学習活動に活用すると答えた割合 小:74.2%(70.1%)、中:87.2%(83.6%)、高:94.3%(93.2%)

()内はH29

⑦ ネット依存の傾向はどのようになっているか

◆ ネット依存の傾向別に見た児童生徒の割合(%)

※ ネット依存傾向の調査項目の合計による判定(低:20~39点、中:40~69点、高:70~100点)

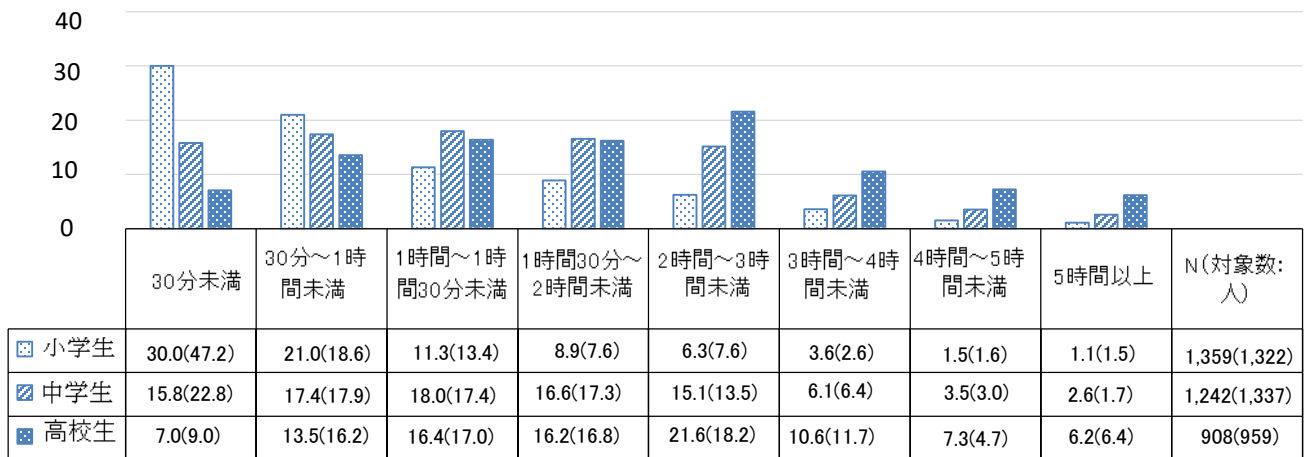


分類の定義
 「低」: 平均的なインターネット使用者
 「中」: ネット依存の可能性有り
 「高」: ネット依存の状態

※ ()内はH29

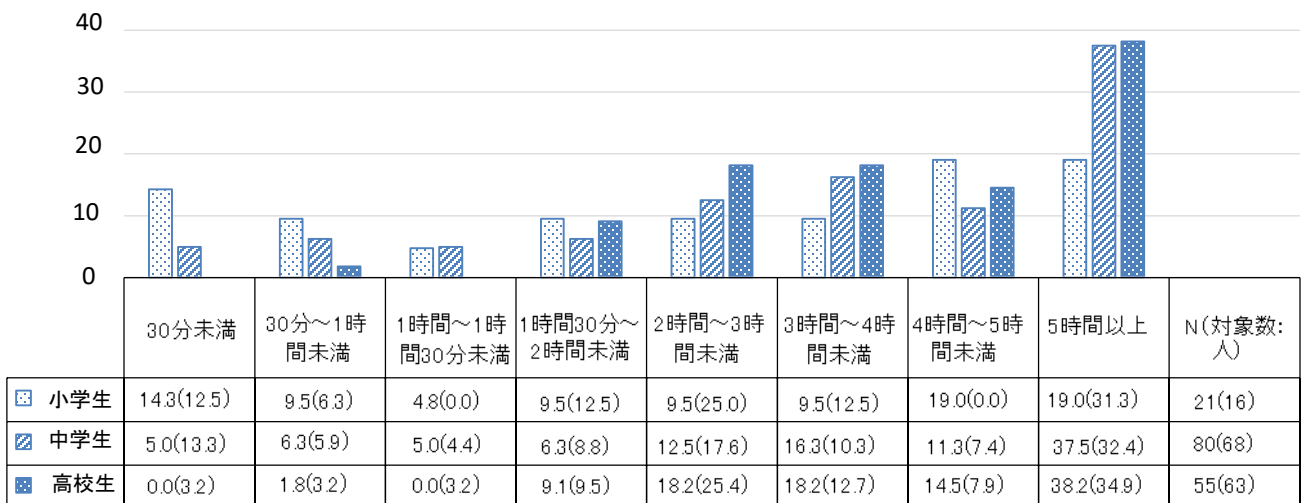
◆ 依存傾向別に見た、スマホ等の利用時間別割合(%)

「依存傾向(低)」



※ ()内はH29

「依存傾向(高)」



※ ()内はH29

【参考】 ネット依存の定義等

- ネット依存とは、アルコール、薬物、ギャンブル等に対する依存症と同じように、インターネットを使用せずにはいられなくなる病的な状態を指す。
- ネット依存の傾向を図る手法としては、アメリカのピッツバーグ大学キンバリー・ヤング准教授が提唱した20項目、簡易版の8項目が代表的な手法である。

【本調査で使用したネット依存傾向を測定する項目】(キンバリー・ヤング准教授が提唱した20項目参考)

- 1 気がつくと、思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
- 2 長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
- 3 家族や友だちと過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
- 4 ネット等を介して、新しく知り合い(友人を含む)を作ることがある。
- 5 まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
- 6 ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
- 7 ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある。
- 8 他にやらなければならないことがあっても、まず先に、LINE(ライン)やTwitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、メールなどをチェックすることがある。
- 9 人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
- 10 日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
- 11 気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
- 12 ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
- 13 ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
- 14 夜遅くまでネット等に関わるのが原因で、睡眠時間が短くなっている。
- 15 ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
- 16 ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
- 17 ネット等をする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
- 18 ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
- 19 誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
- 20 ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

※アンケート項目の尺度

「いつもある(5点)」「よくある(4点)」「時々ある(3点)」「まれにある(2点)」「全くない(1点)」の中から選択し、それぞれの得点を合計し算出する。20項目に回答するため、最低20点、最高100点となる。

※ネット依存傾向の判断基準 「低」20～39点 「中」40～69点 「高」70～100点

(独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター資料等より)

(2) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

〈 概要 〉

① 「嫌な経験をしたことがある」割合

スマホ、ネット、コミュニケーションサービスを利用して、「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小学生6.9%、中学生15.9%、高校生19.5%であり、前年度と比べて、小・中学生は減少し、高校生が増加している。※全ての校種で「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された。」が最も多かった。

② 「悩みや不安を感じている」割合

ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや不安を感じることがある」と答えた割合は、小学生8.6%、中学生17.1%、高校生15.9%であり、前年度と比べて、小学生が増加している。※小学生は「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない」、高校生は「自分の書き込みがあれでよかったかなどと後で悩む」が最も多く、中学生はこれら2つが同率で最も多かった。

③ フィルタリングの設定率

「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、前年度と比べて、すべての校種で減少しているが、「分からない」と答えた割合が多く、児童生徒がフィルタリングについて認識していない場合も多いと考えられる。

④ 画像のやりとりの経験率

面識のない人との間で画像のやりとりを行った経験のある割合が、小学生で0.9%、中学生で3.7%、高校生で5.1%であり、すべての校種で前年度より減少している。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

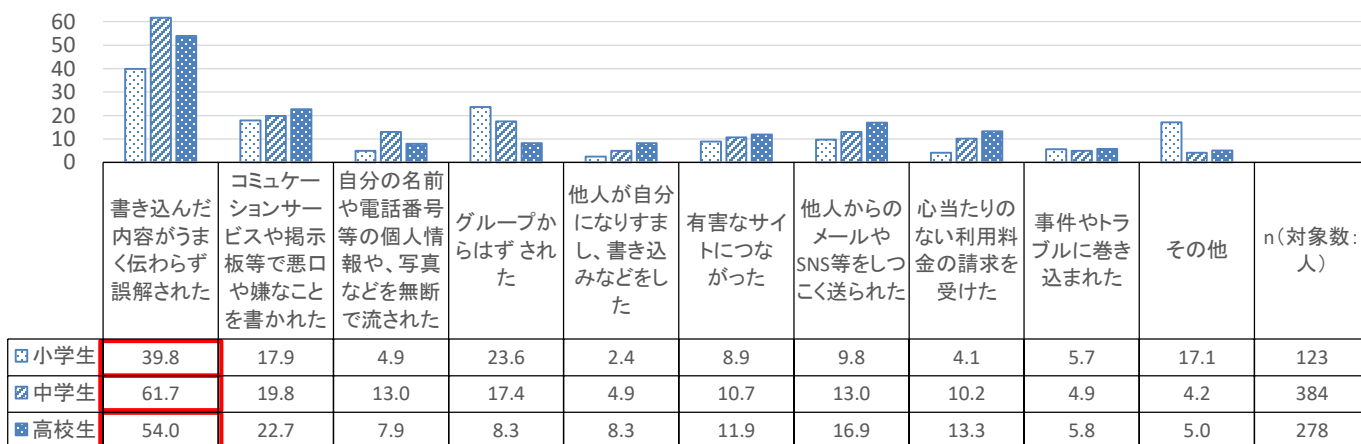
＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	n (H30対象数：人)
小学生	7.6	9.5	7.7	6.9	-0.8	1,782
中学生	19.3	21.5	21.2	15.9	-5.3	2,375
高校生	17.8	17.1	18.2	19.5	+1.3	917

◆ 「経験した嫌なこと」の割合(%) 【複数回答】

＜ネット利用によって嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答＞

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」と回答した割合(%)

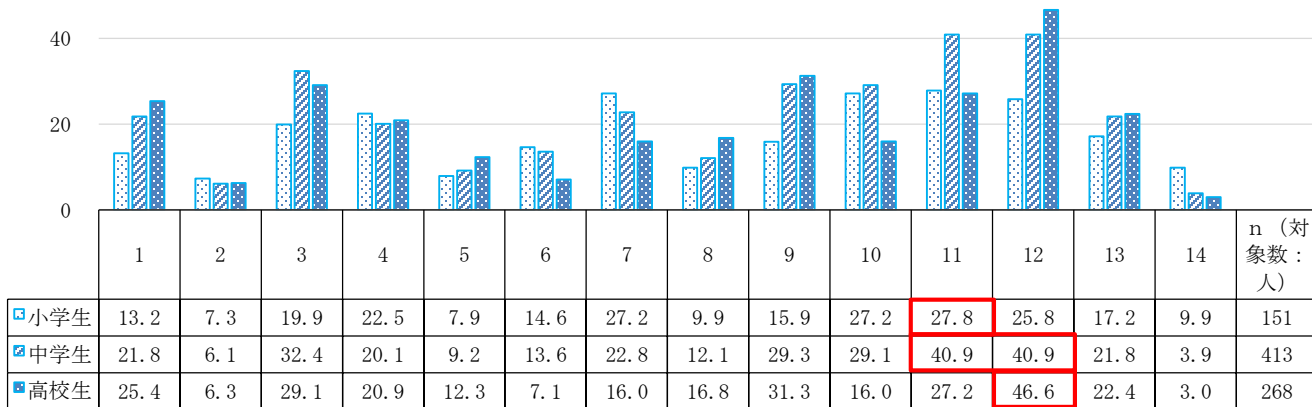
＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	n (H30対象数 : 人)
小学生	8.3	8.3	6.9	8.6	+1.7	1,782
中学生	17.8	17.5	17.6	17.1	-0.5	2,375
高校生	17.6	18.5	17.0	15.9	-1.1	1,694

◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%) 【複数回答】

＜ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある児童生徒の回答＞

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



- 1 利用しているコミュニケーションサービス内の人間関係
- 2 ひんぱんにメッセージを投稿しなければいけないような気がする
- 3 友だちのメッセージをチェックすること
- 4 自分の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む
- 5 他人の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む
- 6 悪意のあるコメントや荒らしがくる
- 7 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる
- 8 知りたくもないのに人の行動がわかってしまう
- 9 メッセージを読んだことがわかる機能(既読チェックなど)がある
- 10 メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけない
- 11 友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない
- 12 自分が書いた書き込みについて、後から「あれでよかったか」などと悩む
- 13 自分の書いたメッセージに反応がない
- 14 その他

③ フィルタリングを設定しているか

◆ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%)

＜自分専用のスマホを持っている又は家族の物を借りて使っている児童生徒の回答＞

	設定している				設定していない				わからない				n (H30対象数 : 人)
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	
小学生	44.7	39.9	40.2	38.4	11.1	10.7	9.5	9.1	44.3	49.3	50.4	52.5	814
中学生	39.2	39.6	36.8	34.3	15.5	13.0	14.0	16.8	45.4	47.4	49.1	48.8	1,633
高校生	42.9	46.0	41.8	38.1	23.2	21.5	21.8	20.4	33.9	32.6	36.3	41.5	1,702

※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

＜参考1＞保護者の意識は？

内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査(平成30年11~12月実施)」の結果によると、フィルタリングの利用に関する保護者の回答結果は、右の表のようになってい

	小	中	高	総数
フィルタリングを使っている	22.5	40.4	40.2	36.8

＜参考2＞販売店調査について

青少年(18歳未満)が使用するスマートフォン等に係る契約時のフィルタリング利用状況調査結果

フィルタリング利用率	(%)
67.2	

(平成31年1月実施 県男女共同参画青少年課調べ)

④ スマホ等で撮影した画像のやりとりをしたことがあるか

◆「スマホ等で自分で撮影した画像(写真・動画)のやりとりをしたことがあるか」と回答した割合(%)

<ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

		小学生	中学生	高校生	
同じ学校との友達の間で	あ る	画像を送るよう言われて送った	12.0	39.8	57.8
		画像を送るよう言われなくても送った	5.8	15.1	20.4
		計	17.8 (21.6)	54.9 (57.6)	78.2 (80.1)
	な い	画像を送るよう言われたが送っていない	3.0	4.1	1.9
		画像を送るよう言われたことも送ったこともない	79.2	40.9	19.9
		計	82.2 (78.5)	45.0 (42.4)	21.8 (19.9)
違う学校との知人の中で	あ る	画像を送るよう言われて送った	4.2	13.2	34.6
		画像を送るよう言われなくても送った	2.4	3.6	10.8
		計	6.6 (8.5)	16.8 (20.9)	45.4 (48.5)
	な い	画像を送るよう言われたが送っていない	2.6	4.8	4.4
		画像を送るよう言われたことも送ったこともない	90.9	78.5	50.2
		計	93.5 (91.4)	83.3 (79.1)	54.6 (51.6)
知らない人との間で	あ る	画像を送るよう言われて送った	0.4	2.7	4.0
		画像を送るよう言われなくても送った	0.5	1.0	1.1
		計	0.9 (1.2)	3.7 (4.2)	5.1 (6.5)
	な い	画像を送るよう言われたが送っていない	0.8	3.8	5.1
		画像を送るよう言われたことも送ったこともない	41.2	35.6	33.1
		知らない人とは連絡を取らない	57.0	56.9	56.7
		計	99.0 (98.8)	96.3 (95.8)	94.9 (93.6)
	n(H30対象数:人)		1,782	2,375	1,694

()内はH29

(3) スマホ等の利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性等に関する学習について

〈 概要 〉

① 夜間利用制限の状況

スマホ、ネット、ゲーム機等の利用について、「●時以降は使用しない」というルールを決めている、ルールではないが自分で使わないように決めている児童生徒の割合は、小学生78.1%、中学生56.4%、高校生19.5%であり、前年度と比べて、小・中学生が増加している。

② 家庭のルールの有無

スマホ等の利用に関する家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小学生53.5%、中学生46.7%、高校生21.2%であり、前年度と比べて、すべての校種で減少している。

③ 家庭のルールの内容

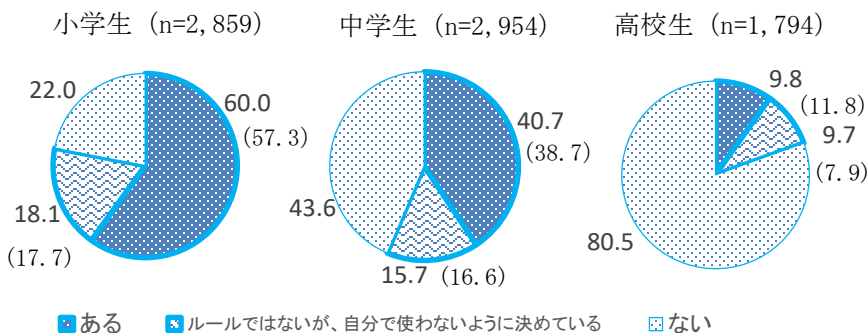
「家庭のルールがある」と答えた児童生徒のうち、そのルールについては、すべての校種で「使う時間」、「知らない人からのメール等に返信しない」、「他人が傷つくような書き込み等はしない」が多い。

④ 危険性等の学習の状況

スマホやネット等の危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合は、小学生85.8%、中学生92.6%、高校生93.8%である。前年度と比べて、小・中学生で増加し、「学校で学んだ」とする割合も増加している。

① 夜間の利用制限に関するルールを決めているか

◆ 「●時以降は使用しない」というルールの有無に関する回答の割合(%)
 <本調査の回答者全員が対象>



〈参考〉全国の児童生徒の状況は？

内閣府公表の「青少年のインターネット利用環境実態調査」(平成30年11~12月実施)の結果によると、インターネットの使い方のルールについて、「利用する時間を決めている」と回答した児童生徒は、学校種別が上がるほど少なくなっている。

	小学生 (10歳~)	中学生	高校生
利用する時間を決めている	75.6	66.6	41.1

(%)

() 内はH29

② スマホ等の利用に関して家庭のルールが設定されているか

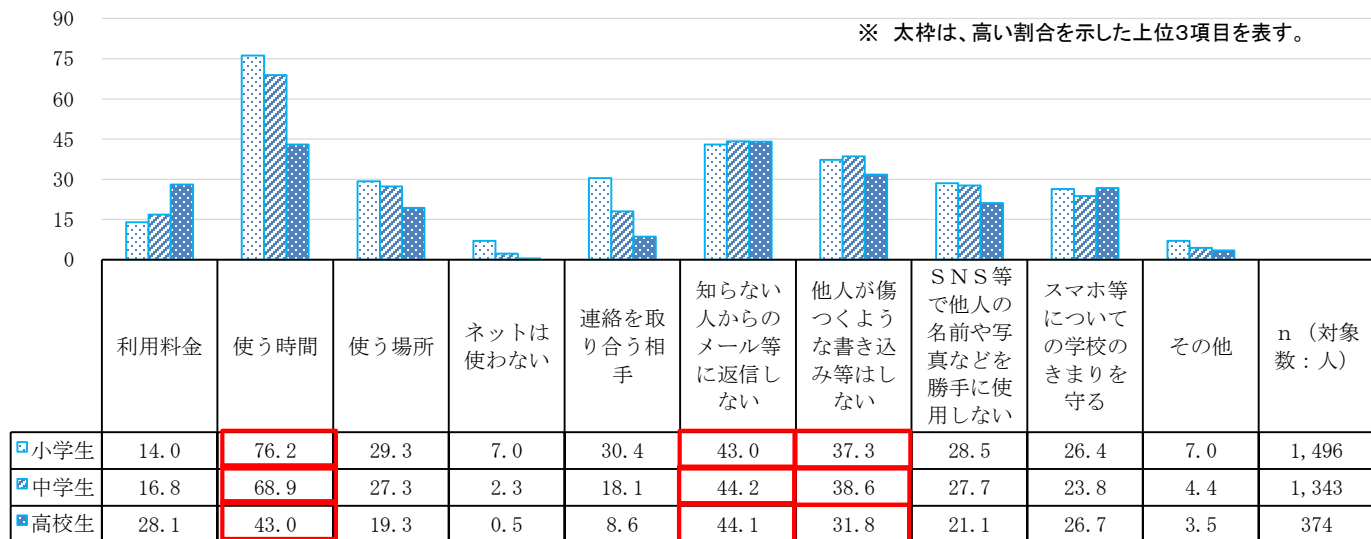
◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	ある					ない					n(H30対象数:人)
	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	
小学生	56.2	60.0	60.5	53.5	-7.0	43.8	40.0	39.5	46.5	+7.0	2,859
中学生	47.5	47.1	50.9	46.7	-4.2	52.5	52.9	49.1	53.3	+4.2	2,954
高校生	17.2	20.4	22.4	21.2	-1.2	82.8	79.6	77.6	78.8	+1.2	1,794

③ どのようなルールを決めているか【複数回答】

◆ 家庭のルールの内容に関する回答の割合(%) <スマホ等の利用に関して家庭のルールが設定されている児童生徒が回答>

※ 太枠は、高い割合を示した上位3項目を表す。



④ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合(%)

◆ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	ある					ない					不明					n(H30対象数:人)
	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	
小学生	81.5	81.8	82.2	85.8	+3.6	11.9	12.6	12.5	9.0	-3.5	6.6	5.6	9.2	5.2	-4.0	2,859
中学生	89.7	90.4	92.3	92.6	+0.3	4.6	5.4	3.8	4.2	+0.4	5.7	4.2	3.8	3.2	-0.6	2,954
高校生	92.9	93.8	93.8	93.8	±0	3.2	3.0	3.0	3.2	+0.2	4.0	3.2	3.2	2.9	-0.3	1,794

◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【複数回答】

<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>

	学校で					保護者に					販売店で					n(H30対象数:人)
	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	H27	H28	H29	H30	対H29年増減	
小学生	74.7	76.9	76.3	79.3	+3.0	56.8	52.6	52.9	56.4	+3.5	4.2	3.9	4.0	4.0	±0	2,859
中学生	93.2	95.4	96.1	96.2	+0.1	39.7	34.0	36.3	36.2	-0.1	6.3	6.1	6.6	6.4	-0.2	2,954
高校生	97.5	97.5	97.8	97.2	-0.6	21.2	18.9	19.9	19.4	-0.5	8.7	7.1	8.0	8.1	+0.1	1,794

(4) 成果と課題

<これまでの取組>

県のスマホ等の夜間使用制限の提唱や、スマホ・ネット問題総合対策により、学校やPTA、市町村教委が積極的に児童生徒の主体的な活動や保護者啓発等の主体的な取組を進めてきている。

① 児童生徒の主体的な取組の促進

・「スマホサミット2018」における、ネットの適正利用等に係る協議等の推進

(H30実績) 参加校：中学校16校、高等学校5校

その他：小学生、保護者有志20名

・コンクールで公募した啓発動画をYouTube「晴れの国岡山チャンネル」で公開

② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

・校内における指導の中核となる教員の養成研修を実施(H27～H29の3年間で全市町村実施)

・校内研修プレゼン用資料の作成と各校への提供

③ 家庭や地域への啓発活動の充実

・保護者啓発の中核となる「子ども安全安心ネットサポーター」の活用促進

・保護者会等でネットサポーターを活用したルールづくりに関するワークショップ等の実施

(H30実績) 実施回数 35回

・家庭でのルールづくりや時間制限フィルタリングのチラシを作成し、保護者懇談会等で直接配付

④ ネット依存の未然防止及び早期対応への取組の促進・充実

・学校、家庭で活用できる「ネット依存防止マニュアル」を作成し、各校へ配付及び県HPに掲載

・ネット依存防止マニュアルを周知し、マニュアルの活用と指導の推進

<主な成果>

◆「スマホ等情報機器端末を学習等で利用する」と回答した割合は、すべての校種で前年度よりも更に高い比率を占めており、有効利用について浸透している状況が見られる。

<小学生> ㉙ 70.1% → ㉚ 74.2% <中学生> ㉙ 83.6% → ㉚ 87.2% <高校生> ㉙ 93.2% → ㉚ 94.3%

◆「スマホやネットの危険性について教えてもらったり、学んだことがある」と回答した割合は、前年度と比べ、小・中学生で増加した。

※ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」と回答した割合

<小学生> ㉙ 82.2% → ㉚ 85.8% <中学生> ㉙ 92.3% → ㉚ 92.6% <高校生> ㉙ 93.8% → ㉚ 93.8%

◆「知らない人に画像を送ったことがある」と回答した割合は、昨年度と比較してすべての校種で減少した。

<小学生> ㉙ 1.2% → ㉚ 0.9% <中学生> ㉙ 4.2% → ㉚ 3.7% <高校生> ㉙ 6.5% → ㉚ 5.1%

<主な課題>

□ スマホ、ゲーム機等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合が、すべての校種で増加しており、依存傾向の高い児童生徒をはじめ、スマホ等の長時間利用が課題である。

<小学生> ㉙ 17.3% → ㉚ 18.0% <中学生> ㉙ 25.1% → ㉚ 27.9% <高校生> ㉙ 36.3% → ㉚ 41.3%

□ 「家庭のルールがある」と回答した割合はすべての校種で減少しており、ルールづくりが進むよう、児童生徒及び保護者の意識を更に高めていく必要がある。

<小学生> ㉙ 60.5% → ㉚ 53.5% <中学生> ㉙ 50.9% → ㉚ 46.7% <高校生> ㉙ 22.4% → ㉚ 21.2%

□ 見知らぬ人と画像のやりとりをしたことがあると答えた児童生徒は依然として存在しており、一層フィルタリングの設定についての啓発、危険性に関する学習を充実させる必要がある。

スマホ・ネット問題総合対策の推進

子どもをめぐるスマホ・ネット問題とは

- * 長時間ゲームをするなどのネット依存
- * 誹謗中傷やいじめにつながる仲間外しなどのネット上の人権侵害
- * 課金、犯罪被害に遭うなどのネットトラブル

背景は

- * いつでもどこでも簡単にネットに接続できる環境
- * 児童生徒のスマホ等の所持率の増加
- * 情報メディアの活用に関する知識・技術の不十分さ
- * 情報社会のルールやマナー習得の不十分さ
- * 保護者、大人の知識・技術、危機意識の低さ 等



現状と取組の目標

○スマホ等の使用時間制限に関する取組の促進 (スマホ、ゲーム等を平日3時間以上利用する割合)

H29実績	小 (17.3%)	H30実績	小 (18.0%)	H31目標値	小 (5%)
	中 (25.1%)	⇒	中 (27.9%)	⇒	中 (10%)
	高 (36.3%)		高 (41.3%)		高 (15%)



○家庭でのルールづくりの促進 (家庭でのルールがあると答えた割合)

H29実績	小 (60.5%)	H30実績	小 (53.5%)	H31目標値	小 (75%)
	中 (50.9%)	⇒	中 (46.7%)	⇒	中 (70%)
	高 (22.4%)		高 (21.2%)		高 (60%)

○フィルタリング設定に関する取組の促進 (フィルタリングの設定率)

H29実績	小 (40.2%)	H30実績	小 (38.4%)	H31目標値	小 (85%)
	中 (36.8%)	⇒	中 (34.3%)	⇒	中 (80%)
	高 (41.8%)		高 (38.1%)		高 (70%)

学校

児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及

【教育委員会】

- 『OKAYAMAスマホサミット2019』の開催
 - ・ 小学校部会、中学校部会、高校部会の開催による発達段階に応じた取組の活性化
 - ・ 保護者部会の開催による、家庭でのルールづくりに向けた啓発活動について協議
 - ・ 成果報告会(11月)の開催 ※教職員・保護者対象

継続・成果普及

ネット依存への対策

【教育委員会】

- ネット依存の未然防止や早期対応
 - ・ ネット依存防止マニュアルの活用と指導の推進
 - ・ 県総合教育センターと連携した教職員への研修の充実

継続強化

ネット上のいじめ・トラブルへの対応

【教育委員会】

- アプリを利用した相談・報告システムの活用対応
 - ・ スマホ等を介して匿名で学校にいじめ等を報告・相談できるシステムを全県立学校に導入し、早期認知・早期対応に活用

継続

実態把握に基づく対応の推進

【教育委員会】

- スマートフォン等の利用に関する実態調査
 - ・ 児童生徒の利用実態に関する調査を継続し、取組全体の効果検証と課題を把握し、指導に活用
- 学校保健概要調査
 - ・ ネット依存に関する取組や児童生徒の依存傾向等を実態把握し、指導に活用

家庭・地域等

家庭・地域等への啓発活動の促進

継続・強化

【教育委員会】

- P T A 研修会の充実
 - ・ 参加型のワークショップの取り入れや、ネットサポーターの派遣により、家庭でのルールづくりを促進
- 優良実践 P T A の取組を普及
 - ・ スマホ・ネット問題で成果を上げているPTAの好事例を収集し、県内に普及
- 就学前の保護者研修の充実
 - ・ 親育ち応援学習プログラムの活用を促進
 - ・ ネットサポーターの派遣を推進
 - ・ 入学説明会や検診の機会を活用し早期啓発を強化
- 地域住民等への啓発活動の推進
 - ・ 地域学校協働本部等と連携した研究機会の充実
 - ・ 学校通信等を活用した啓発活動を推進
 - ・ 家庭教育企業出前講座の取組を推進



継続

関係機関等と連携した対応

- 『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』
 - ・ 携帯電話事業者も参画した官民一体のフィルタリング設定促進等の取組 【男女共同参画青少年課】
- 『インターネットモラル教室』 【県警本部少年課】
- ネットパトロール 【教育委員会】

学校と家庭・地域が連携し、子どもを守る体制の構築